

## 投稿規定

- 一、投稿枚数は、「立教大学日本文学」のフォーマットに照らして14頁（29字×50行×14頁）以内とします。
  - 二、原稿は縦書きを原則とします。横書きによる掲載を希望する場合は、投稿前に必ずご相談ください。
  - 三、原稿は完全清書原稿とし、注・引用その他の形式は、既刊のものに準拠してください。場合によっては体裁の統一を図らせていただきます。
  - 四、原稿は手書き原稿・プリンター印字原稿を問わず、二部提出してください。
  - 五、プリンター印字原稿の場合は、原稿二部と併せて電子媒体（CD・ROM、USBメモリー等）でデータを提出してください（電子媒体の返却はいたしません）。メールによる提出（rikkyonhonbungakuhensyu@gmail.com宛）も可能です。データをメールで提出する場合は、その旨、原稿郵送の際に編集担当者までお伝えください。
  - 六、査読担当委員は、外部の有識者を含め、会長がこれを委嘱します。
  - 七、執筆者校正は論文・書評について初校のみ。ただし論訂正は最小限度にお願いします。
  - 八、論文執筆者には掲載誌三部・抜刷四〇部を進呈します。
  - 九、「立教大学日本文学」は雑誌として刊行すると同時に立教大学のリポジトリにも登録され、掲載原稿の全文をPDF化したうえでオンライン公開します。投稿された原稿については、その旨、ご承諾いただいたものとなります。ただし、論文内に用いられた写真・図版などについては、その部分に限って、原則として電子化の対象から外すこととします。
- 十、原稿のメ切り日は、五月の連休明け最初の月曜日と十一月の秋学期明け最初の月曜日です。

## 編集後記

- △二〇二一年二月四日（土）、昨年は中止とせざるを得なかった立教大学日本文学会を、オンライン上で開催形式のため事前の準備や当日の進行は大変でしたが、みなさんの力添えを得て有意義な学会にすることができました。（尽力くださった大学院生のスタッフ、発表者、聴講してくださったみなさまに感謝申し上げます。二〇二二年度こそは、対面で開催し、懇親会の場が愉しめたいものです。）
- △二〇二二年度をもって、加藤陸教授と川崎賢子特任教授がご退職されます。加藤陸さんは副総長、文学部長をはじめ多くの要職に就かれ、立教大学の発展に貢献され、ともに、日本文学専修における和歌研究の領域で、長年にわたり優れた研究・教育活動をしてこられました。川崎賢子さんも五年間に亘り大変魅力的な授業をしてください、多くの学生たちから知的な刺激を与えてくださいました。お二人のこれからの更なる活躍を心から願っています。
- △昨年からは学会事務を担ってくださっている李愛理さんは、この三月にご結婚で東京を離れるため退任されます。後任は大学院博士前期課程修士生の杉本佳奈さんをお願いすることになりました。
- △本号には八本の論文と二本の書評が掲載されています。コロナ禍が続く資料調査もままならない状況ではありますが、こうして多くの研究論文を読むことができ、背中を押されるような気持ちになります。
- △「立教大学日本文学」第一二八号は二〇二二年七月に刊行予定です。多くの会員からの投稿をお待ちしています。

\*本会への入会申込・会費など、電話によるお問い合わせは、下記のサポートセンターまで。

会費 一年 四〇〇〇円

立教大学日本文学会

振替 〇〇一四〇一八一―二二三三三三

## 「書評」欄に関する規定と 献本のお願

「立教大学日本文学」は学会員の著作を広く紹介することを目的に、下記の原則にそって「書評」、「新刊紹介」欄を設けています。

一、「書評」、「新刊紹介」については、著作の一冊を立教大学日本文学会に献本いただいたものを対象とする。

一、献本いただいた著作については、原則として「書評」または「新刊紹介」を掲載する。

一、「書評」（執筆は非学会員も含めた有識者）、「新刊紹介」（執筆は大学院生または本学教員）の区別については、編集委員会が適宜判断する。

立教大学日本文学 第一二七号

二〇二二年三月二十五日 印刷

二〇二二年三月三十日 発行

編集発行人

立教大学日本文学会

加藤 陸

〒171-8501 東京都豊島区西池袋三―三三―四―一

サポートセンター

電話（〇三三）三九八五―二五〇五

印刷

上毛印刷株式会社